

学術知共創プログラム

◆課題:「新たな人類社会を形成する価値の創造」

◆研究テーマ:「プラスチック汚染の実態解明を通じた共通価値創造:循環経済へのネットワーク創出」

研究期間:R3.10~R9.3

委託費総額:105,315千円

<研究代表者>

原田 禎夫:大阪商業大学公共学部/准教授



<公共経済学>

<Webページ>

<https://researchmap.jp/read0070441>

<研究目的・概要>

「人新世」の象徴ともいべきプラスチック汚染

- 生態系や人体の健康への深刻な影響も懸念される中、日本の対策は国際的にも大きく遅れている。
- 学問領域や社会制度の「はざま」で生じている問題であることが、研究の遅れ、社会の理解促進を阻害している。



国内外の多様なセクターとの協働による新たな研究・教育手法の開発と実践による問題解決

- 市民参加型調査による農業由来のプラスチック汚染の実態解明。
- 新しい環境教育の手法の開発と実践を通じた人々の意識や行動の変容の調査。
- 環境市民活動を通じた流域単にでの新たな物質循環の創出。
- 国内外の研究と市民科学のネットワーク構築と交流。



総合的に問題の全体像を把握できる次世代の人材育成に貢献し、より広い学術や社会の発展に寄与する

<研究計画の特徴>

人文・社会・自然科学や企業、市民団体など豊富な経験を持つチームによる学問領域の枠を超えた実践的研究プログラム。

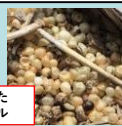
- ステークホルダー間の情報の断絶を解消する学術知を生み出し、問題解決への共通価値 (CSV) を創造する。
- 「バイオマスを活用した地域内の物質循環」を通じた脱プラスチック社会を実現する。

<目標とする研究成果>

(1) 農業由来のマイクロプラスチックの実態解明

農地からの流出を中心に、河川流域におけるマイクロプラスチックの発生量と動態を解明し、流域が一体となった問題意識の共有を図る。

水田から流出した被膜肥料カプセル



(2) 環境教育を通じた人々の行動変容

簡易分析キットとキット対応スマートフォンアプリを開発し、国内外の教育機関と連携して新たな環境教育プログラムを開発し、実践することで人々の行動変容がどのようにして起きるかを検証する。

(3) 新たな物質循環システムの構築

農業地域の社会構造の変化が農地保全にどのように影響しているのかを解明。コミュニティ・コンポストやプラスチック製農業資材に過度に依存しない農業の実践を通じて、地域における新たな物質循環モデルを構築する。



<将来展望>

流域単位の新たな物質循環の指針を示すとともに、人文学・社会科学と自然科学の双方に精通する人材を育成し、学術研究と市民科学の国際的ネットワークを構築することで、プラスチック汚染からの脱却に貢献する。